

B. 総合学習の研究

安藤富美子 石川 久美 川合 勇治 高木 徹
田中 裕巳 徳井 輝雄 長谷川 弘 三橋 一夫

総合学習の理論と実践

—— 新たな飛躍を旨として —— (その5)

高3文系選択科目「総合学習」(生命について)は、87年度に第2年次の実践を終えた。88年度も当初受講希望者が少なく、開講が危ぶまれたが、12名の生徒(男子10名、女子2名)が登録し、「生命について」のテーマの下に、すでに第3年次の実践に入っている。

第1年次の実践についての反省としては、昨年度本校紀要論文において触れた。今後私たちのグループの実践が、マンネリズムや安易な自己満足に陥ることを

避けるためにも、第1年次の反省に踏まえた、より高次の反省が第2年次についても要求される場所である。そこで、Ⅰでは、主に第2年次の実践の概要を田中が、Ⅱでは、主に第2年次までの到達点と今後の課題について徳井がまとめてみた。

またⅢには、長谷川が、高2研究旅行が広島方面から長崎方面に変わったことの意義や事前の取り組みについてまとめてみた。

I. 「生命について」第2年次の実践について

田中 裕巳

1. 選択者の動機

87年度は受講者は12名(男子3、女子9)であった。第2年次とあって、授業内容、方法などについては、上級生からかなり情報を得ていたようだ。第1回(4月9日)の授業は、総合学習とはなにか、授業の予定などを話し、第2回(4月13日)は、総合学習を選択した動機などを生徒に語らせた。

- ・M.T女：テストがないと思ったので。
- ・K.S女：化学の時間にI先生に勤められた。他の科目は必要ない。
- ・K.I男：他の科目は必要ない。食物は男なので肩身が狭い。
- ・H.T男：他の科目は必要ない。何やるか分からないから興味があった。
- ・S.T男：赤点がなさそうだから。
- ・T.O女：食物が多そうだったから。
- ・J.M女：テストが無いとか。
- ・A.M女：食物に変わりたいが、駄目と言われた。

- ・K.F女：理科・社会を少しづつやると言うから興味があった。
- ・S.K女：政経、倫理は受験にいらぬから。
- ・Y.O女：M先生に勤められた。
- ・K.M女：志望校には関係ない科目だけど、楽しそう。

これが生徒達の選択した動機であったが、前年度に比べ、積極的な動機が更に減ったようだ。しかしながらこれには、私達の側にも責任がある。前年度同様に、選択希望調査の時期に、一応の宣伝はしたのだが、今年度のテーマなどをどうするかは、十分な説明の機会を持っていなかった。従って「何やるか分からないから興味があった」という程度は、やむを得なかったとも言える。しかしながら、「テストがない」、「赤点がない」という動機は、その後の授業態度にも反映していた。

2. 授業展開

4月16日 生命に関して、各自が関心を持っている

テーマを聞いた。

- ・麻薬と暴力, エイズ, 遊び (K. I 男)
- ・死刑, 先天的異常 (Y. O 女)
- ・身体障害者, 奇形の原因 (K. S 女)
- ・精神・身体異常者の社会的地位, 部落差別 (K. F 女)
- ・宗教と生命, 生命の思想史 (A. M 女)
- ・遺伝子操作, 自己意識 (S. K 女)
- ・生命の思想史, 生命の誕生, 生命のリズム (H. T 男)
- ・遺伝子操作, 自殺と殺人, 脳死・心臓移植 (S. T 男)
- ・宗教と生命 (特に新興宗教), 神話, 枯葉剤の影響 (T. O 女)
- ・妊娠中の胎児 (M. T 女)
- ・うつ病について, 非行 (K. M 女)
- ・遺伝子操作, 安楽死, 脳死 (J. M 女)

これらのテーマのうち, S さん, H. T くん, T さん, J. M さんの4人は後にみるように, 2学期に自主研究として選んだテーマをすでに提出していることが分かる。

4月20日 「生命の起源 (I)」 徳井

科学の立場からみた生命の起源

- ・VTR「オリジン」を見て
- 1. 生命の定義
- 2. ウィルスは生命体か

4月23日 「生命の起源 (I)」 徳井

1. 前回の復習
2. VTR「オリジン」を見ての感想
3. 再びVTR「オリジン」を見て
 - ①ビッグバンとは何か。
 - ②宇宙の始まりは何であったと言われているか。
4. 君は, 生命の起源をどこまでさかのぼって考えるか。

4月27日 「神話にみる生命の起源」 田中

1. 魚の神話とシンボリズム
2. 進化についてのマオリ族の考え方
3. 島釣り神話

5月7日 「生命の誕生」 田中

神話・創世紀の世界から

1. 宇宙・生命の始源についての人間の想像, 解釈
2. 「創造主」, 「超越者」としての神
3. 時間・系譜としての神話
4. 文化としての神話
5. 誕生儀礼

5月11日 「生命と宇宙の起源をめぐる神話・宗教と

科学の関係」 徳井

1. 神話・宗教の宇宙観・生命観
2. 科学の説く宇宙観
3. 神話・宗教の果している役割

5月14日 「生死常住の哲学」 田中

1. 本覚思想 生死不二
2. 本覚思想の生死観 色即是空, 空即是色 生死常住

5月25日 今までを振り返って 司会 (K. I)

- ・ビデオの生命の誕生もうそっばい (M. T)
- ・両方うそっばいが神話のほうが信じられる。(Y. O)
- ・神話はあまりに非現実的で興味は持てない。(K. I)
- ・神話は強引過ぎ。(S. T)
- ・ビッグバンが135億年前とは信じがたい。(K. M)
- ・神話は人間の本質に触れる部分がある。(H. T)
- ・神話は面白いがそう興味は湧かない。(S. K)

5月28日 「脳死について」 三橋

- ・死の3大条件
- ・脳死は臓器移植と切り離して考えた方がいい。
- ・和田教授による心臓移植
- ・筑波大学事件
- ・脳死をめぐる法律問題 殺人罪, 遺産相続
- ・学会会議の動向

6月1日 「脳死について」 田中

- ・VTR「剛亮, 生きてや」を見る。
- 4月にNHKが放映したもの。京都の小児科医がわが子の脳死に直面して, 脳死を死と認めるかどうか, 他者への臓器移植をしようかどうか, 親として, 医者としての苦悩を描いていた。
- ・大谷實『生命の法律学』(筑摩書房)より, 「脳死状態とは何か」『脳死 脳死とは何か? 何が問題か?』(技術と人間)より, 「脳死一再度, 何が問題か?」をプリントして配付。

6月4日 「遺伝子工学について」 三橋

- ①胚培養, ②薬培養, ③DNAの組みかえ,
- ④遺伝子工学の成果など。

6月8日 「遺伝子操作」 徳井

- ・遺伝子操作の描く未来 農業, 畜産, 医学などで
- ・遺伝子操作の持つ問題点 生物災害, 生物兵器
- ・資料① 「サルにヒトの遺伝子組み込んで働か

- せる臨床応用へさらに一步 米の学者ら”の朝日新聞（'88. 5. 30）の記事，② “バイオ研究に未知の危険 細菌の突然変異起こすニトロソグアニジン”の朝日新聞（'86. 8. 31）の記事，③ “軍事技術の先端 生物・化学兵器”
- 6月11日 “ベトナム戦争・枯葉剤作戦後遺症” 石川
 ・ベトナム戦争を取り上げたニュース・ステーションのVTRを見てから討論
- 6月15日 “異常児・障害児のいのちについて” 川合
 ・Q1 異常児として生まれるケースにはどんなものがあるか。
 ・Q2 自分の子ども（まだ母体内にいるとき）がダウン症と分かったら、あなたはどのようにする……？
 ・Q3 仮にあなたが小児マヒで手足が不自由だとしたら健全な人間と同じ普通の学校へ通うことをどう思いますか。
 ・Q4 障害者は社会にとってお荷物だと思いますか。
 以上の問を中心に意見を出し合った。
- 6月18日 “精神病理” 長谷川
 1. 精神の病とその分類（資料1. 次の症状は正常か異常か、資料2. 視線恐怖）
 2. 神経症と精神病の違い
 3. 現代の特徴（資料3. 分裂病）
 4. アイデンティティの喪失（資料4. スチューデント・アパシー）
 5. 年代と好発病像（資料5. 強迫神経症、資料6. うつ病）
- 6月22日 “人間の生命とは” 徳井
 1. 自殺者の心理
 問1 自殺したいと思ったことがありますか。
 あればそれはどんな時ですか。
 問2 次のような死についてどう思いますか。
 (1)近松描くところの情死
 (2)親子心中
 (3)戦死
 (4)心理学的伝染死 岡田由希子の後追い自殺
 (5)尊厳死や安楽死
 2. 自殺サイン
 問3 VTRでの絵を見て、その特徴は何ですか。

- 問4 自殺サインをみつけたらどうするか。
3. 人間の生命とは
 問5 君が一番生き生きするのはどんな時か。
 問6 君はどんな時にゆううつになりますか。
 問7 結局人間の生きる意欲はどんな時に湧き起こってくると思いますか。
- 6月25日 “非行と犯罪” 田中
 1. 苦悩する存在
 2. 非行と犯罪の違い
 3. ①触法少年とは何か。
 ②虞犯少年とは何か。
 4. 非行の質的变化
 5. 思春期挫折症候群という用語を聞いたことがあるか。（資料、稲村博『思春期挫折症候群』より“思春期挫折症候群の主徴候”）
 6. 数年前の横浜浮浪者殺害事件についてどう思うか。（資料、鎌田慧『現代社会100面相』より、“浮浪者”狩り）
 7. 永山則夫『無知の涙』のことを知っていますか。（資料、永山則夫『無知の涙』より、“悲しき殺しやの歌”）
- 6月29日 “死刑制度” 高木
 1. 死刑制度は賛成か反対か 罰、歯止め効果
 2. 死刑存廃論 植松正『刑法とはなにか』（NHK市民大学叢書）より資料
 3. 加賀乙彦『宣告』（新潮文庫）をめぐって中野孝次の解説 なしくずしの死
- 7月2日 “死刑制度について” 田中
 1. 死刑制度に賛成か、反対か。自分の意見を述べなさい。
 2. カントの応報刑についてどう思うか。（資料 岩波講座現代法第11巻『現代法と刑罰』より）
 3. 自分が法務大臣になったとしたら、死刑確定囚に、処刑実施の印を押すことが出来ますか。
 4. 処刑を実施する刑吏という職業についてどう思いますか。自分の職業としたいと思えますか。（資料、阿部謹也『刑吏の社会史』より。その後、合田士郎『そして、死刑は執行された』恒友出版が出た。）
 5. 刑吏と軍人が殺人罪を問われることがないのは何故だろうか。
 昨年度と同様に、中間テストは実施しなかった。期

末テスト(7月6日)では、次の設問を用意して、自由に書かせた。

I. 次の事柄について説明して下さい。

- (1)脳死
- (2)プラスミド
- (3)ウィルス
- (4)創世記
- (5)生死不二
- (6)スチューデント・アパシー

II. 次のテーマ群から1つを選んで、それについて論述しなさい。

- (1)養護学校の長所と短所について
- (2)遺伝子操作の長所と短所
- (3)ベト君・ドク君について
- (4)自殺の社会的理由について
- (5)私にとって生きる意欲とは
- (6)死刑制度について
- (7)私の生命観について
- (8)高校生の非行と学校とのかわり

III. 一学期の感想

IV. 二学期の研究テーマ

テスト後、最初の授業にあたる7月9日の授業では、テストを返却し、上記ⅢとⅣとを話し合った。

III. 一学期の感想

- ・M. T 科学的なことはあまり興味が湧かない。死刑制度、ベト君・ドク君などが面白かった。
- ・K. S 神話などには興味がない。
- ・K. I ビッグ・バンなどは面白くない。
- ・S. T 生徒のはなしあいの時間が少ない。
- ・J. M 後の方のテーマに興味を持てた。
- ・T. O 一つのテーマにもっと時間をかけたほうがよい。
- ・S. K ビデオをもっと見たかった。
- ・K. F 非現実的なものの方が面白かった。
- ・A. M 最近になって面白くなった。テーマがころころ変わるのもよい。
- ・Y. O 死刑についてはその種類などを詳しく知りたかった。
- ・K. M プリントについてもテストをして欲しかった。

生命の誕生についての科学的なアプローチ、遺伝子工学などの理科学的なテーマには関心が薄いことが分かる。これらのテーマにどのように興味を持たせ、分かりやすく理解させるかが今後の課題だろう。

IV. 二学期の研究テーマ

- ・M. T 胎児の障害とその原因
- ・K. S ダウン症などの障害児について
- ・K. I 人間の心につて、心理と行動

- ・S. T 戦争中などの支配者の生命観
- ・J. M 精神や心理について
- ・T. O 脳死について
- ・S. K 脳死や安楽死について
- ・K. F 障害者やボランティアについて
- ・A. M 身体障害者について
- ・Y. O アメリカの代理母について
- ・K. M 老人ホームへ行って交流してみたい。

7月13日 2学期の研究についての話し合い

先回の話し合いに基づいて、テーマ毎にグループ分けをした。

- ・障害者 (K. S, K. F, A. M)
- ・胎児の障害 (M. T)
- ・人間の心 (K. I)
- ・脳死と安楽死 (T. O, S. K, J. M)
- ・老人ホーム (K. M)
- ・代理母 (Y. O)
- ・昔の人の生命観 (S. T)
- ・宗教と生命観 (H. T)

なおこの日、秋の学校祭にこの授業の生徒が主催者となって、「生命について、ビデオを見て考える」という文化講座を主催することが決められた。

7月16日 ETV「胎児診断 問われる生命の倫理②」をビデオで見る。

9月7日 各人のテーマの確認、指導教官の割り振り、各人のテーマについての観点、調査の方法などについて。

この後、生徒達は図書館を中心とした自主研究に入って行ったが、女子生徒の一部に、熱心にビデオを見たり、参考図書を読んでいる姿がみられたが、全体的には時間を有効に使っているという姿勢は、残念ながらあまり見られなかった。

3. 生徒達の発表

10月26日 「代理母について」 Y. Oさん

人口受精、体外受精、借り卵、代理母の違い

10月29日 「身体障害者」 K. Sさん

胎児の障害について

10月31日 「胎児の障害」 M. Tさん

奇形のできやすい時期、原因、先天異常、近親結婚による胎児の障害など

11月5日 「死刑廃止論」 K. Fさん

死刑廃止をめぐる各国の動向など

11月9日 「死刑廃止論」 A. Mさん

日本の刑法、ヨーロッパの刑法、死刑とその執行

11月12日 「脳死の判定基準と世論」 T. Oさん

脳死とは? 脳死の判定基準、脳死を死と認めるかどうかの世論調査、世界各国の脳死に関する現

- 状など
- 11月16日 「脳死と臓器移植」 J. M さん
脳死とは？ 日本人の死生観と臓器移植，臓器移植の例
- 11月26日 「脳死について」 S. K さん
脳死とは？ 医師と患者の人間関係、『医師における倫理の問題』・『生物学的・医学的倫理——決定のためのガイドブック』・『患者の権利に対するリスボン宣言』・『日本病院会「勤務医マニュアル」』などより
- 11月30日 「老人ホーム」 K. M さん
全国の寝たきり老人，特別養護老人ホームについて
- 12月10日 「人間の心『無意識』について」 K. I 君
ユング心理学から
- 12月14日 「昔の偉い人の生命観」 S. T 君
ヒトラーの優生政策をめぐって
- 12月17日 「宗教と生命観」 H. T 君
3 大宗教，宗教成立にさかのぼる古代ギリシア哲学者の死生観，3 大宗教の死生観，宗教と医学
- 1月11日 「養護学校のレポート」 K. S さん

4. まとめとして

1年間の授業の流れを追ってきたに過ぎないが、概観してみると、2年目にして早くもマンネリズムに陥った、という観が免れがたい。高校3年生を対象としているということから、受験体制の壁にぶつかっているということなのか、それともいまの附属の生徒の質・余裕の問題なのか、そしてこれが過半の責任なのだろうが、教師側の考えのたりなさ・指導のまずさなのか。原因は錯綜している。生徒達の報告集『1987年度高3総合学習 生命について』に寄せた私の文章を転載して、まとめに代えたい。

生命の尊さと学ぶことの尊さ 田中裕巳

「麻薬と暴力、エイズ、(石倉)、「死刑、(奥田)、「身体障害者、(鈴木)、「部落差別、精神異常者の社会的地位、(深見)、「宗教と生命、生命の思想史、(宮木)、「遺伝子操作、(小林)、「生命の誕生、生命のリズム、(高山)、「自殺と殺人、(竹内)、「新興宗教について、(岡壽)、「妊娠中の子供、(竹山)、「鬱病について、(水野)、「安楽死、脳死、(宮澤)。

これは総合学習の第2回目の授業(4月16日)のときに、みんなが興味のあるテーマとして上げたもののメモである。結局、同じテーマを調べ、ここにレポートしている人もいるし、まったくテーマが変わって

行った人もいることが分かる。このあと授業は、ほぼ1学期いっぱい、先生達による講義中心になって行ったわけだが、そこで聞いた話や話合いが、最終的なテーマを決める動機づけになったのだろう。

1年間が経って、そしてこの報告集を通読してみて、「高校3年生なのだから、もう少し創造的なことがやれないものか」という歯がゆい気持ちと、「受験生なのだから、まあまあ良くやった方ではないか」と誉めてあげたい気持ちとの板挟みになる。これは1年目の最後の気持ちとまったく同じである。歯がゆい気持ちは実は「期待」、誉めてあげたい気持ちは実は「諦め」。教師の側の、この期待と諦めに対応して、みんなの側にも、視野の狭い受験生にはなりたくないという気持ちと、やっぱり受験勉強の方が大事だから、総合学習とはいい加減なところでつき合いたいと言う気持ちとの「板挟み」があったことでしょう。

1年間を思い返してみると、「話合いの仕方、がみんなだんだんとうまくなって来たし、うまく話合いが出来るようになると、みんなが一つの話題に集中することが出来て、楽しかったね。

「もう少し創造的なことを」という期待は、実は「報告集、という文字化されたものへの幻想のようにも思います。4月当初からこの報告集にみられるまでの、みんなの「生命について」の関心の深まりは、うまく文字化されていないけれども、「話合い、への積極的な関わり方に、十分に反映されていたと思います。そういう意味で、今年は「受験生なのに、まあまあ良くやった方ではないか」という気持ちの方を強めています。

「生命について」さまざまなテーマを通して学んできましたが、教師たちのみんなへのメッセージは、「生命の尊厳を、身内に対してだけでなく、視えないひとびとに対しても大切にしたい」と言うことだと思います。このことは、例えば「人の話をきちんと聞く」という、平凡な場面でも、実は、試されているのです。人が話している目の前で、そのまなざしを「無視、して、よそごとをしているということは、その人とのパーソナルな関係の否定であり、その人の人格・生命の尊厳の否定とも言えるのではないのでしょうか。そう言う意味で、「話合い、が出来たようになったと言うことは、みんなの大きな成長だと思えます。

「視えないひとびと、の生命にも思いを馳せる事の出来る人間であって欲しいと、ますます遠くに視えなくなっていくみんなに対して、願っています。たまには教官室に元気な顔を見せにきて下さい。1年間つき合ってくれてありがとう！